

# 教師の 腕前診断

文 | 城ヶ崎滋雄 (千葉県公立学校講師)  
イラスト | 吉田朋子

今回のテーマ

## 合言葉で子どもが動く

陸上競技の短距離走のスタートは、「On your marks (位置にうつ)」、「Set (用意)」とコールされます。

「On your marks」の目的は「Set」に繋がる適切な姿勢をとることです。

学校でも「Aと言ったらB」と呼応するような言葉があります。合言葉です。

学校では集会で校長が演壇の前に立ち止まると、司会者は「気をつけ」と言い、「礼」の動作を誘います。授業では、「これから3時間目の算数を始めます」と日直が声をかけると、生徒の「はい」の返事を誘います。

合言葉があることで次の行動が予測できます。学級経営の中で、教師が意図する方向に子どもを導きたい時には有効な方法です。

### 1 教師の話に集中させたいとき

授業中や集会で子どもたちが騒がしくなるときがあります。子どもの前に立っている教師はざわつきが気になります。

**Q** 話を聞いて欲しいとき、どうしていますか。

- ① 「話をします」と予告する
- ② 静かになるまで待つ
- ③ 「き・い・て」と呼びかける

①のように予告すると、子どもは静かになるものだと教師は思っています。残念ながらそれは理想です。

教員になるような人は真面目な子ども時代を

過ごしています。教師の指示を忠実に守り、羽目を外さず、叱られるようなことはあまりしません。それだけに教師の指示に従わない子どもに対しては「指示に従わない子」というレッテルを貼りがちです。

真面目な教師にとって最悪なケースは、教師の指示を無視する子どもです。子どもが話を聞かず、言うことを聞かないと教師は困ってしまいます。

指示に従わずおしゃべりを続ける子どもを許せない教師は、「静かにしなさい」と大きな声を出して、止めさせようとします。

「話をします」という予告には、静かにして欲しいという言外の意味はあるにしても、子どもたちは、それが自分たちをコントロールする言葉だとは思っていません。

②は指導力のある教師なら効果があります。指導力のある教師は、ただじっと待っているわけではありません。全体を見渡し、静かにしている子どもとそうでない子どもを見分け、おしゃべりしている子どもにも視線を移し、視線を止めます。すると近くの友達が「先生が見ているよ」と囁き、気つきを促します。教師は口にチャックをする真似をし、おしゃべりを止めるように指示します。私はこれを「静かな指導」と呼んでいます。

そして、注目する先を静かにしている子どもに移します。頷いて静かにできていることを伝え、指で「オッケー」サインを送ります。これを「静かな褒め言葉」と呼んでいます。

黙って佇むだけで子どもを静かにさせられるのは達人の技です。普通の教師にはこのようなひと工夫が必要です。

叱らずに黙って待っていたらやがて静かになるでしょう。しかし残念ながら、学校では時間が限られています。「やがて」ではなく「すぐ」に話を聞いて欲しいのです。

そんな時、③のように呼びかけると、子どもは楽しそうに答应てくれます。「聞いて」と頼まれたら、「聞くよ」と応えます。まさに合言葉です。「聞いて」という呼びかけにはコツがあります。普通の言い方だと、「はい」と返事をするか頷くだけです。これは「言われたからやる」のであって、子どもの意思が反映されていません。子どもにとって楽しみや面白さがないのです。

私は頷きながら一言ずつ区切って「き・い・て」と呼びかけます。最初の「き」を聞いた子どもとの反応は、「なんだろう?」です。



教師の腕前が試される、学級経営のひと工夫。

ベテラン先生によるケーススタディです。

こんな時、あなたならどうしますか？

次の「い」を聞くと、聞くことを要求していると気づきます。さらに、「き・い・…」の次は「て」だろうと子どもは予想します。

最後の「て」は少し間を空けます。子どもは早く「て」と言って欲しくて前のめりになります。これが静寂へとつながります。

最後の「て」は大きく頷きながら、大きな声で言い切ります。静かなとき、「ワッ」と大きな声を出すと驚くのと同じです。

「聞いて」はお願い言葉です。お願いされると、それに応えたくになります。しかも、「聞いてあげるよ」と優位さを持ちます。

子どもたちはどんな言葉で応えるのでしょうか。それは、「き・く・よ」です。最後の「よ」は教師と同じように大きな声で言い切ります。子どもたちは無意識のうちに「き・く・よ」と言います。それもニコニコしながら言うので、その場が明るくなります。

ところで、「き・い・て」と呼びかけると、どうして「き・く・よ」と応えるのでしょうか。「き・い・て」は3拍です。3拍には3拍で返したくなるのです。

例えば、「は・い」は2拍となり、呼応しません。「は・あ・い」なら3拍になりますが、少々間延びした感じがあります。「わ・か・り・ま・し・た」は丁寧ですが、6拍と長すぎます。

たまにふざけて「い・や・よ」という子どもがいますが、そんな時は気が利く子どもが「い・い・よ」と機転を利かせて、臨機応変な返しをしてくれます。

3拍だと呼応しやすいのは、日本の文化に由来するのではないかと思っています。三三七拍子がその典型です。

どうやら日本人にとって奇数音は心地よく響くようです。俳句も「五・七・五」と奇数です。

## 2 子どもらしさを引き出す合言葉

話を聞いて欲しいときに「き・い・て」を用いる以外にも、合言葉は子どもの良さを誘います。それは「子どもらしさ」です。

私は今年度、高学年の算数のTTを務めています。担任ではないので、密な人間関係ができていくわけではありません。

子どもが板書を写していたので、「もういいかい？」と声をかけてみると、若干名から「もういいよ」「まだだよ」が返ってきました。6年生でも反応するものだと感じしました。反応してくれたことに対して、「いいね。ありがとう」とグッドサインを送ります。



授業が進み、板書がいっぱいになったので、それを消そうと思ったのですが、先ほどのことが脳裏をかすめた私は、少しふざけながら「黒板を消しても、『い・い・で・す・か？』と言ってみました。『はい』と返ってくると思っていたところが、驚きです。『い・い・で・す・よ』とほぼ全員がニコニコ顔で返します。その姿が可愛いのです。子どもらしいのです。6年生がまさかこんなことをするとは予想外です。

思わず、「可愛いね」というと、「え〜」という反応です。「子ども扱いしないで。もう6年生なんだよ」という抗議が含まれています。

「可愛く思える」と大それたに思えばと思うんだ。それは私の心が幸せになるからだ。幸せにしてみたらからお返しをしたい、大事にしたいと思うんだ。『算数がわかるようにするぞ』と本気になるんだ。人から可愛げがあると思われするのは、悪いことではないんだ」と話しました。

子どもらしくなるということは幼さを発揮することです。無邪気になるといことです。それは本音を語り、素直になれるということです。これ以降、これまでと違ったことが起こりました。

指名すると目をキョロキョロさせて黙り込んでいた子どもが「わかりません」と意思表示をします。机間指導をしていると、「わからない。教えて」と私を呼び止めます。通り過ぎようとする、指でつつきます。「待って」という合図です。問題を差して、首を振ります。

ノートを突き出す子どもがいます。「できたよ。見て、見て」という自慢です。「すごいでしょう」と誇らしそうにしています。その仕草はまるで低学年です。6年生ですが、子どもらしさを発揮しているのです。